

No. 20 2026年4月12日

復活後第一主日礼拝  
説教『恐れの中の喜び』

司会 吉丸初美さん  
奏楽 自動演奏機  
招詞 I ペテロの手紙 1章3～4節  
主の祈 (564)  
讃詠 5 4 6  
交読詩編 詩 110 編  
祈禱 美歌 21 - 1 4 9  
使徒信条 (566)  
聖書 ヨハネ福音書 20章19～29節  
説教 (口語訳176頁、新共同訳210頁)  
『恐れの中の喜び』

祈禱 美歌 21 - 3 2 1  
献金  
感謝  
報栄 5 4 3  
祝禱  
後奏

次週の礼拝(復活後第二主日礼拝)  
説教『まことの羊飼』  
ヨハネ福音書 10章7節～18節  
招詞 I ペテロ 2章25節/交読詩篇75編  
讃美歌 546、21-287、21-339、544

礼拝当番  
今週 12日 司会 吉丸初美さん  
次週 19日 司会 安部愛さん  
会堂清掃奉仕 5月3日(日)  
コーヒータイム後行います。

本日の集会

★教会学校 午前9時45分～  
★出会うのひととき 礼拝後～

それぞれの思いを語り合しましょう。

今週の集会/スケジュール

♫ 広島キリスト教信徒会理事会 4月14日(火)10時30分～  
於:広島復活教会

♫ めぐみ幼稚園 誕生日礼拝4月17日(金)10時30分～  
子どもたちの健康と保育者の働きをお祈りください。

次週の集会/スケジュール

★2026年度広島西部教会定期総会  
日時:4月19日(日)13時～15時

議題:教務・教勢報告、決算・予算、役員選挙等  
キリストの体である教会活動を共に考えましょう。

★聖書を読む会 4月21日(火)10時30分～12時  
創世記15章を読んでいきます。

興味のある方は是非ご参照ください。  
♫ 広島拘置所教誨奉仕 4月22日(水)13時30分～16時  
施設にある方の信仰を覚えお祈りください。

● レコードコンサート 4月26日(日)13時～15時30分

《モーツァルト》  
弦楽四重奏 第16番 変ホ長調 K. 428  
モーツァルト弦楽四重奏ハイドン・セット  
弦楽四重奏 第17番 変ロ長調《狩》K. 458  
モーツァルト弦楽四重奏ハイドン・セット  
交響曲 第41番 ハ長調《ジュピター》K.551  
ご自由に参加されてください。お待ちしております。

◎ 公 告 ◎

★西中国教区第75回定期総会 5月19日(火)13時30分  
～5月20日(水)16時 場所:カリエンテ山口

※季節の変わり目です。体調を崩されないように気を  
付けてお過ごし下さい。

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	2	11	13

◇今週の説教要旨(復活後第一主日礼拝)

『恐れの中の喜び』ヨハネ福音書 20章19～29節  
主が十字架にかかり息を引き取って遺体が墓に納められて三日目の朝、マグラダのマリアは墓に行きそこで復活された主に出会いました。彼女はそのことを弟子たちに伝えました。だけど彼らは恐れの中鍵をかけて閉じこもっていたのです。そこへ復活の主は「安かれ」と声をかけて手とわきの傷を見せられました。彼らは主を見て喜びました。恐れの中逃げ散っていた弟子たちが、また一つに結ばれるには、イエスさまの存在が必要でした。続けて「安かれ」と言われた後主は弟子たちを派遣されました。ここには救いに至った者の歩む道が示されているのでしょうか。その力となるのは主の「平安」と聖霊でした。この時弟子たちの中にはトマスがいなかった。でも主はそのことをご存じだったはず。家に戻って来たトマスにほかの弟子たちは主に会ったことを告げましたが彼は信じませんでした。釘跡と傷を見なければ信じないと言い張ります。そこで主は一週間後トマスのために「安かれ」と言われて現れました。そして主は彼に望んでいることを行うようにと言われたのです。弟子たちには閉じこもっていてもイエスさまは来られました。トマスには疑っていてもイエスさまは来られました。出合いは人間の努力の結果ではなくキリストの側から始まっています。主は条件付きの信仰を拒むことも叱責することなくトマスに寄り添われました。トマスは仲間の証言を聞きました。でも自分も同じように主に会いたかった。彼の疑いは断絶ではなく求める信仰だった。主はその疑いを受け止めて出会われました。そしてその出合いが疑いを超えさせ信仰告白に至ったのです。私たちは見て信じることから始まります。しかし主はそこにとどまらず見ないで信じる関係へと招かれています。「見ないで信じるものはさいわいである」トマスに言われたこの言葉はまさしく今を生きる私たちにも向かって言われています。初代の弟子たちは主を見て信じました。では私たちはどこで主に出会うのでしょうか。出会いはすでに始まっています。招かれている方に応答する形で私たちは祈り言葉にとどまるのではないのでしょうか。